
シェアリングエコノミー関連調査 2024年度調査結果 (シェアサービス×関係人口)

株式会社 情報通信総合研究所
2024年1月

関係人口増加に貢献するシェアサービス

関係人口とは

- 移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる人々のこと（総務省HPより）

※<https://www.soumu.go.jp/kankeijinkou/about/index.html#:~:text=%E3%80%8C%E9%96%A2%E4%BF%82%E4%BA%BA%E5%8F%A3%E3%80%8D%E3%81%A8%E3%81%AF%E3%80%81,%E4%BA%E3%80%85%E3%82%92%E6%8C%87%E3%81%99%E8%A8%80%E8%91%89%E3%81%A7%E3%81%99%E3%80%82>

関係人口関連シェアサービス：関係人口増加に貢献するシェアサービス

多拠点居住、ワーケーション（スペースのシェア）

Airbnb、ADDRESS、Unito、n'estate、SANU 2nd Home、Co-Sato
TeamPlace、Otell

観光よりも長期間地域に滞在し、地域の暮らしを体験できるサービス

仕事体験（スキルのシェア）：Timeeトラベル、おてつたび、SAGOJO、
セカンドキャリア塾、

地域の仕事のお手伝いをしながら、知らない地域を旅することができるサービス

暮らし体験（スキルのシェア）：aini、SHARE BASE Matching、ミライステラス

地域の自然体験、ものづくり等幅広い体験ができるサービス

クラウドファンディング：CAMPFIRE

地域の特産品やサービスを購入できるサービス

※アンケート調査対象は地方の企業の製品又はサービスを購入する、地方に寄付する等、地方の支援につながる使い方をしたことがある人

調査内容

経済効果の推計

- 自治体が①シェアサービスを活用した関係人口増加施策②移住促進施策を実施する場合の地域への経済効果を推計して比較

アンケート調査①

- 関係人口関連シェアサービス利用者と非利用者双方に行ったアンケート調査
- 関係人口関連シェアサービス利用者と非利用者の違いを比較

アンケート調査②

- 関係人口関連シェアサービス利用者に行ったアンケート調査
- 関係人口関連シェアサービス利用者の特性を分析

経済効果の推計

シェアサービス×関係人口の経済効果

自治体によるシェアサービスを活用した関係人口増加施策の経済効果は1,972万円
移住促進施策の831万円の約2.3倍

※関係人口増加施策・移住促進施策は多種多様であるため、公表情報・ヒアリング情報を元に、代表的な事例や過去の事例の平均値等を用いて推計

	シェアサービスを活用した 関係人口増加施策	移住促進施策
施策の内容	前述のシェアサービスを活用して 関係人口を増加させる施策	PRや補助金支給等によって 移住者を増加させる施策
経済効果 の特徴	1人当たりの経済効果は小さいが 増加させるのが容易	1人当たりの経済効果は大きい 増加させるのが難しい
1施策あたりの 経済効果	関係人口が自治体内で 製品・サービスに支出する金額 からの経済波及効果 1,972万円/年	移住者が自治体内で 製品・サービスに支出する金額 からの経済波及効果 831万円/年

経済効果の算出方法

- 産業連関分析における「均衡算出高モデル」を用いて推計。モデル式は以下のとおり。
- 自治体によって産業構造が異なるが日本全体の平均的な産業構造を想定（日本全体の産業連関表データを使用して計算）。

$$X = (I - (I - \hat{M})A)^{-1}Y$$

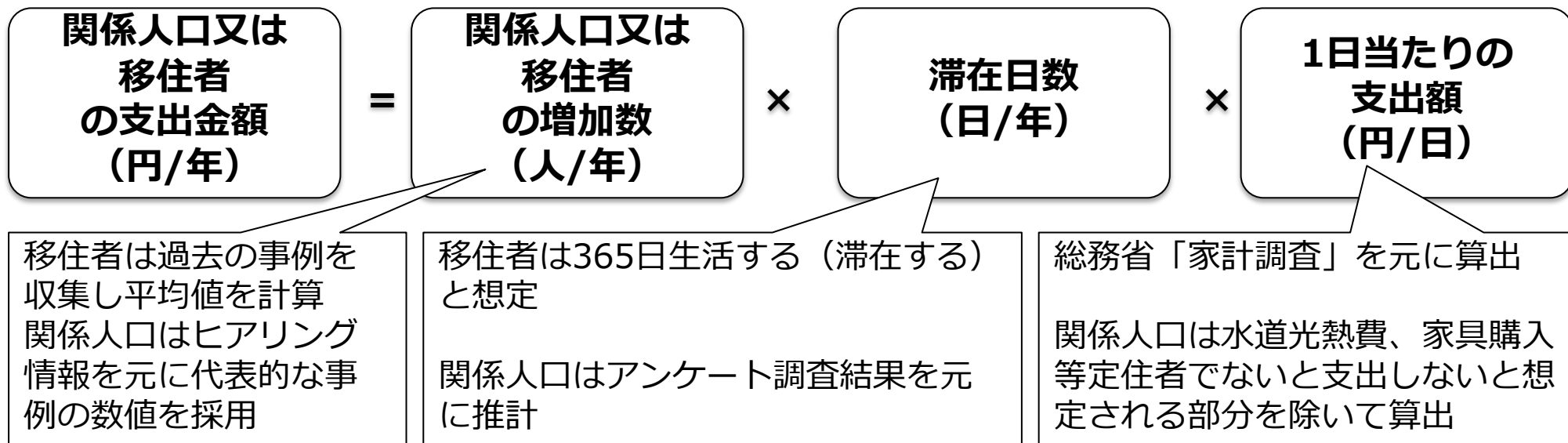
X：経済効果

I：単位行列

M：輸入係数行列

A：投入係数行列

Y：関係人口又は移住者の支出金額（下記）ベクトル

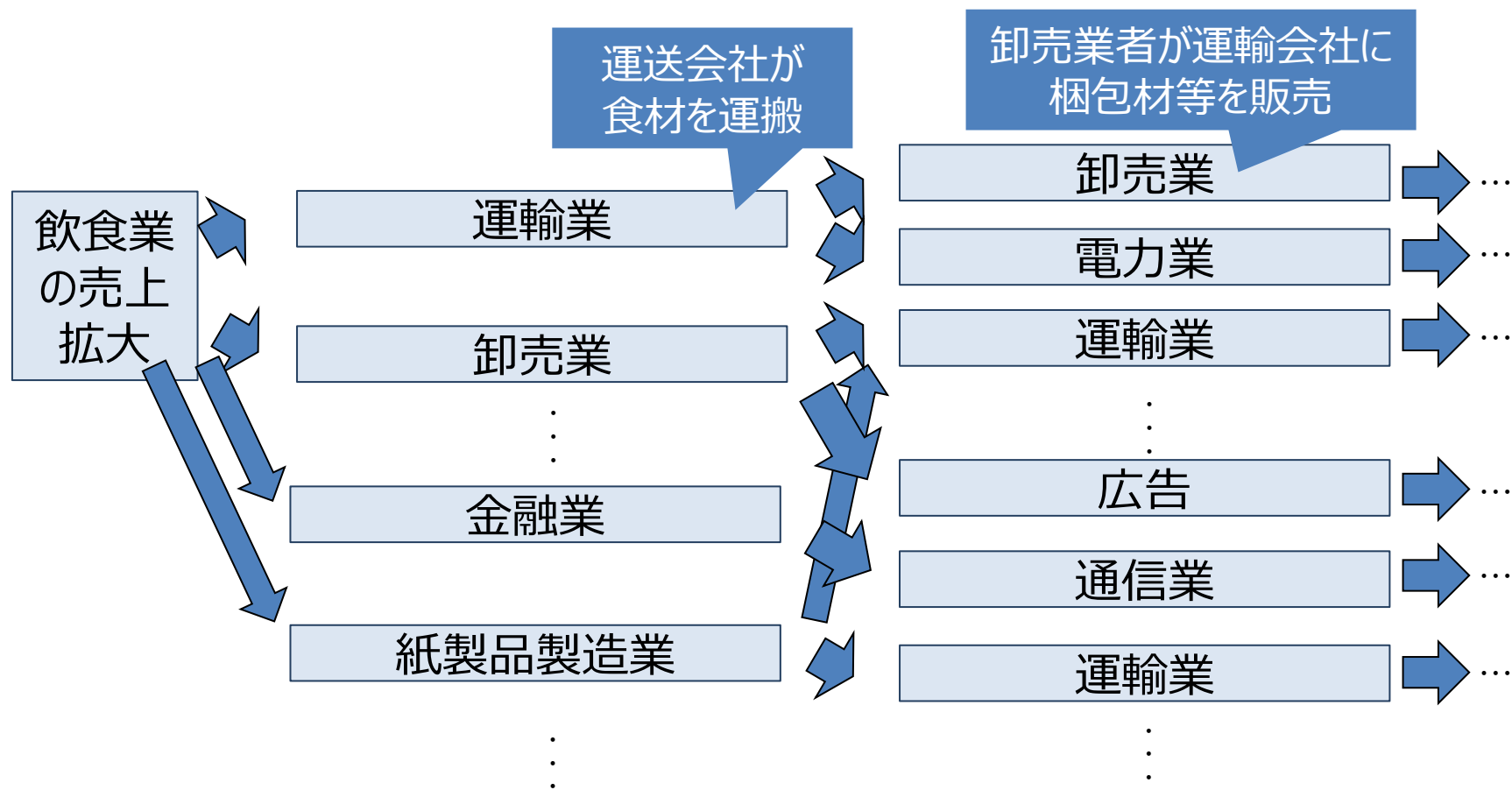


※総務省「2015年産業連関表」データを使用して計算。

※関係人口又は移住者の支出金額ベクトルは推計した金額を産業連関表の家計消費支出の比率で案分して作成。

経済波及効果の例

- 関係人口又は移住者が飲食店で食事をすると、飲食店だけでなく運輸業や卸売業等様々な企業の売上拡大につながる
- これらを全て合計した金額が経済波及効果



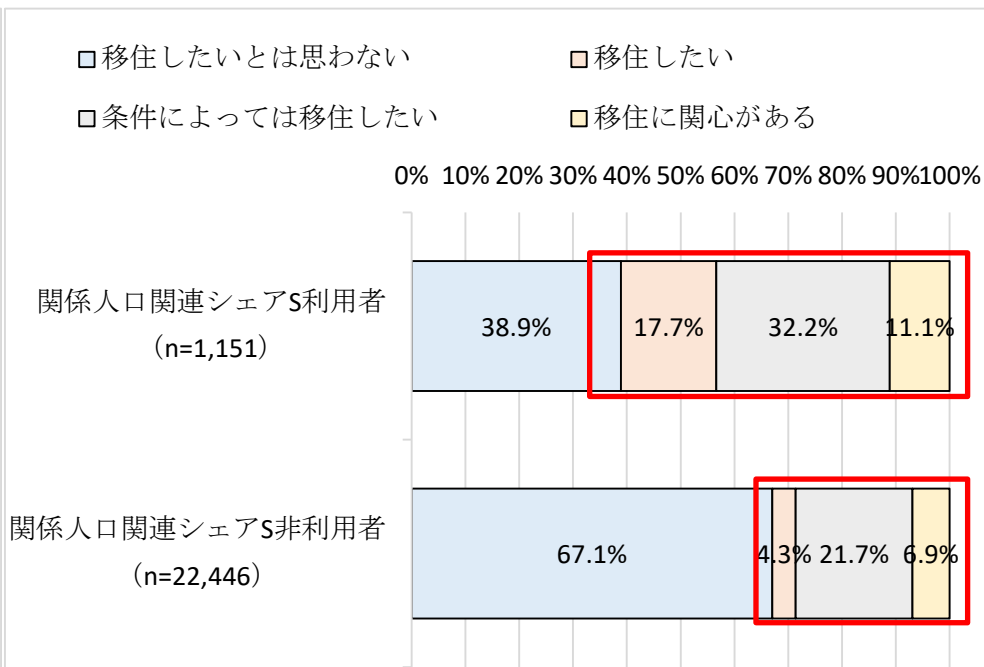
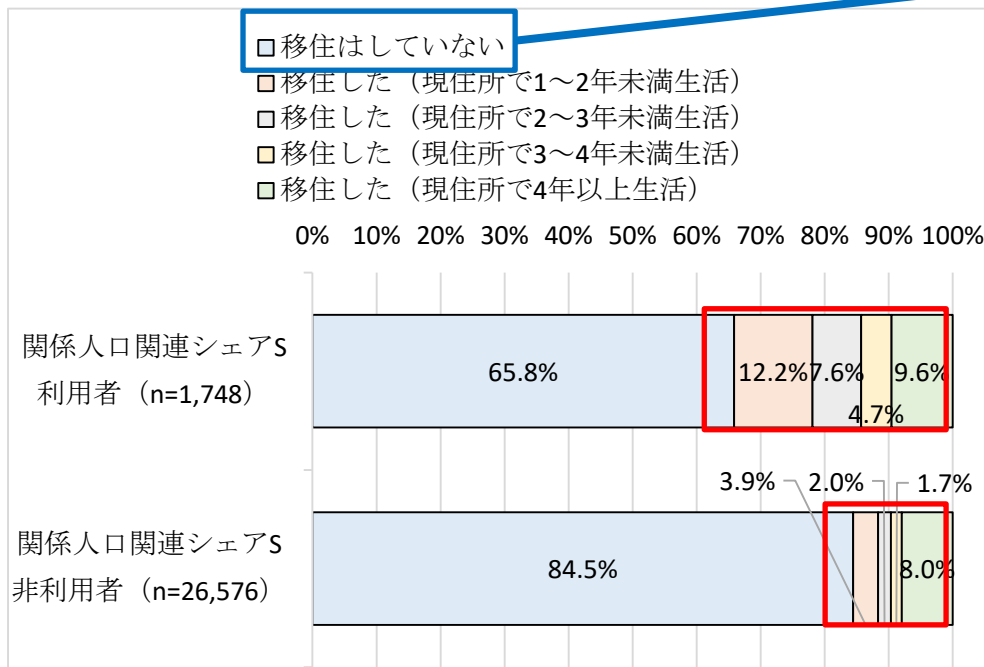
アンケート調査①

関係人口関連シェアサービス利用者（グラフ内で
「関係人口関連シェアS利用者」と表記）と非利
用者双方に行ったアンケート調査

移住経験、移住意向

移住経験

移住意向



関係人口関連シェアサービス利用者の方が、非利用者よりも移住（過去5年以内）した割合が高い。

過去5年以内の移住経験がない人に移住意向を聞いたところ、関係人口関連シェアサービス利用者の方が、非利用者よりも移住意向が高い。

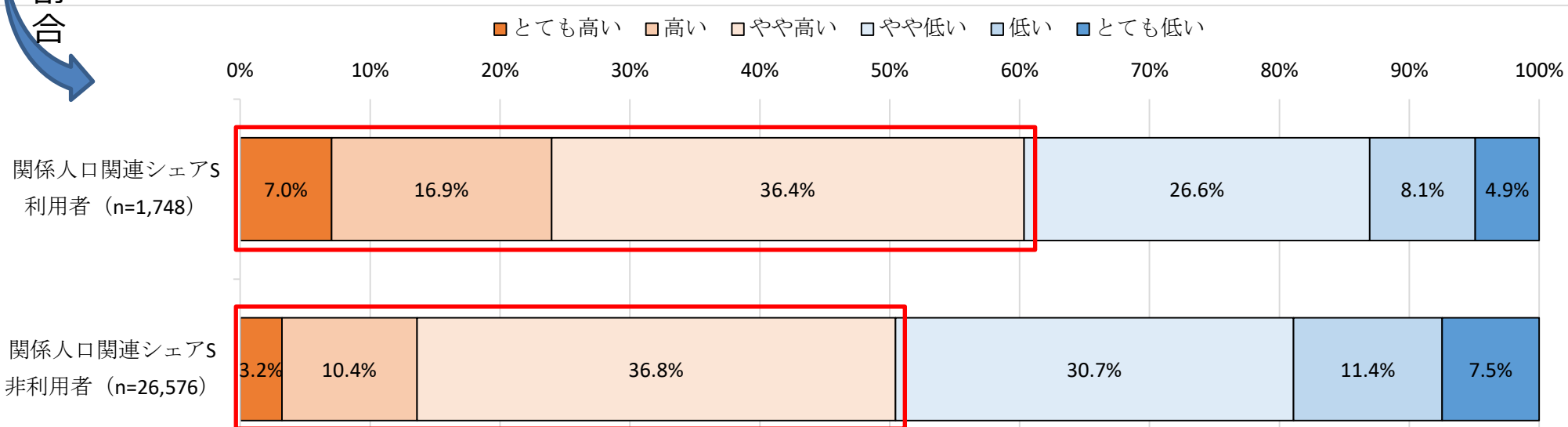
※ グラフ内の「関係人口関連シェアS利用者」はP2に示した関係人口関連シェアサービス（他拠点居住、仕事体験、暮らし体験、ワーケーション、クラウドファンディング）のいずれかの利用者

幸福度①

幸福度の項目	内容
生活の裕福さ	経済的に豊かな生活をおくれているか
生活の順調度	余暇が充実しているか、将来に希望が持てるか
生活の安心・安全度	危険な目に合わず安心して生活できているか
社会から認められている度合い	他人から信頼されているか、社会的な地位があるか
各項目を総合した幸福度	以上の総合

各項目を総合した幸福度の回答割合

回答割合

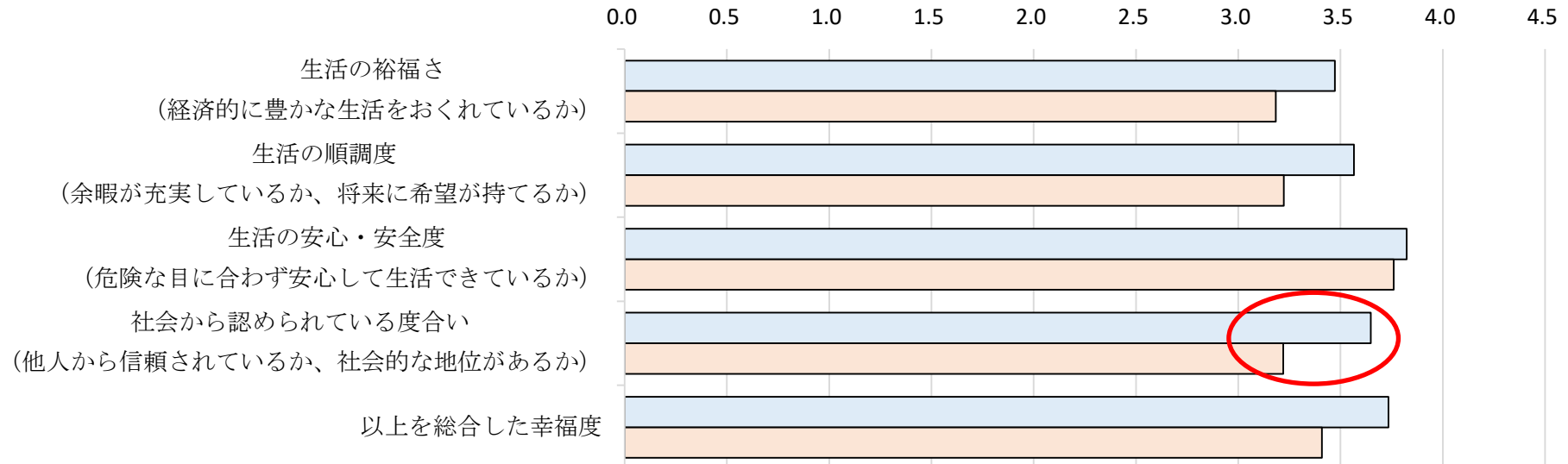


関係人口関連シェアサービス利用者の方が、非利用者よりも、幸福度が高いという回答割合が高い。

幸福度②

幸福度の項目別のスコア

□ 関係人口関連シェアS利用者 (n=1,748) □ 関係人口関連シェアS非利用者 (n=26,576)

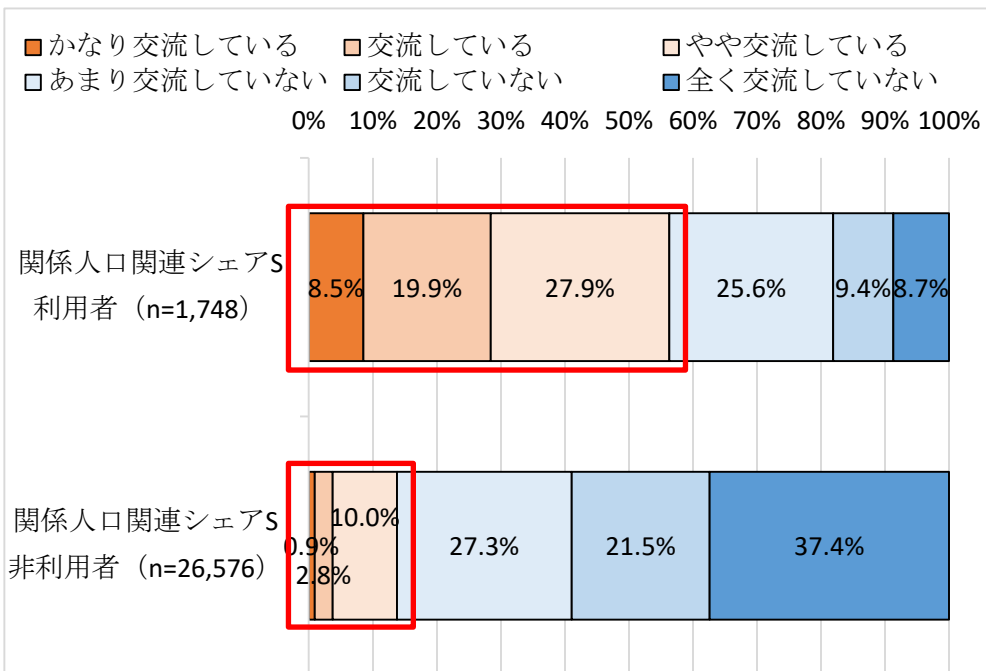


幸福度の各項目をスコア化して比較すると、関係人口関連シェアサービス利用者の方が、非利用者よりも、全ての項目の幸福度が高い。特に「社会から認められている度合い」は両者の差が大きく、シェアサービスによる人と人とのつながりが影響していることが考えられる。逆に、シェアサービスと関連が薄い「生活の安心・安全度」は差が小さい。

※ 幸福度のスコアは各項目のアンケート回答を「とても高い：6」「高い：5」「やや高い：4」「やや低い：3」「低い：2」「低い：1」と1～6の数値に変換してから平均値を計算した値

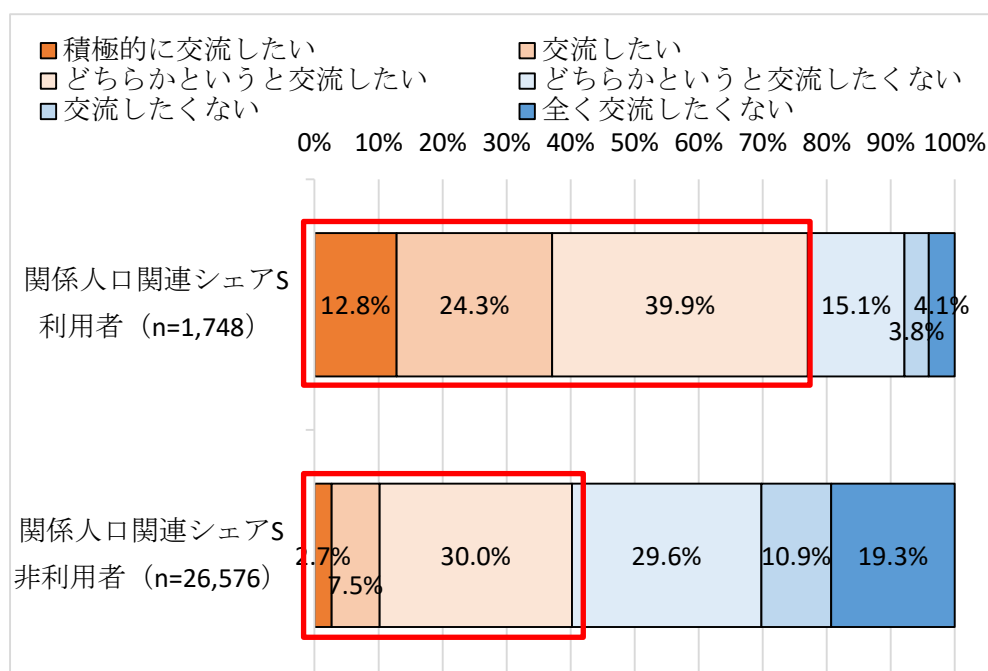
多様な人との交流

多様な人との交流※状況



関係人口関連シェアサービス利用者の方が、非利用者よりも、多様な人と交流している割合が高い。

多様な人との交流※意向

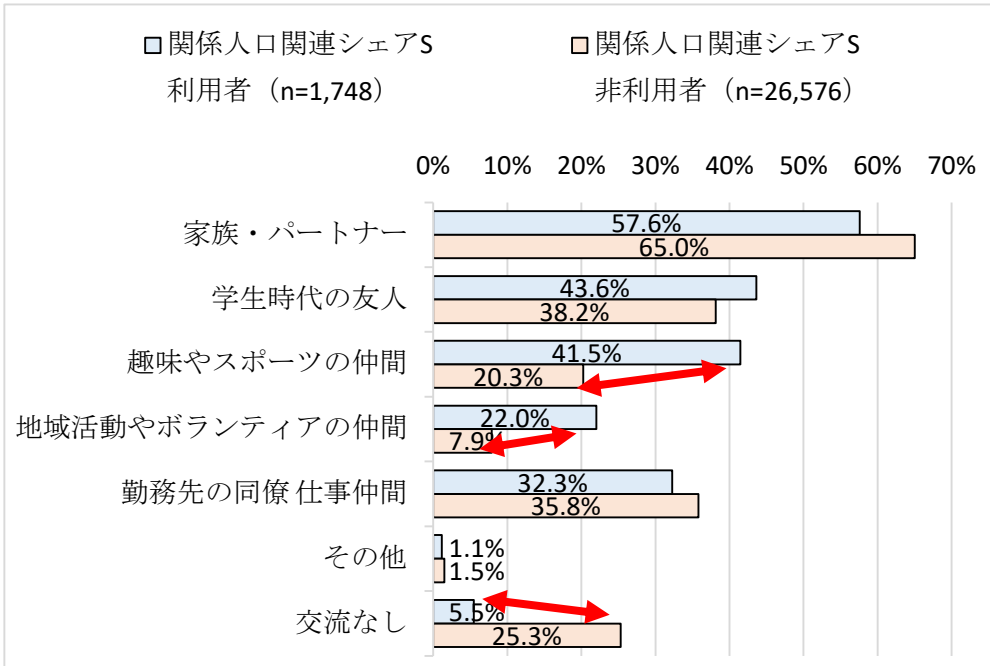


関係人口関連シェアサービス利用者の方が、非利用者よりも、多様な人との交流意向が高い。

※ 国籍、年齢、宗教、文化的背景、性（LGBT）、居住地等について多様な人と交流

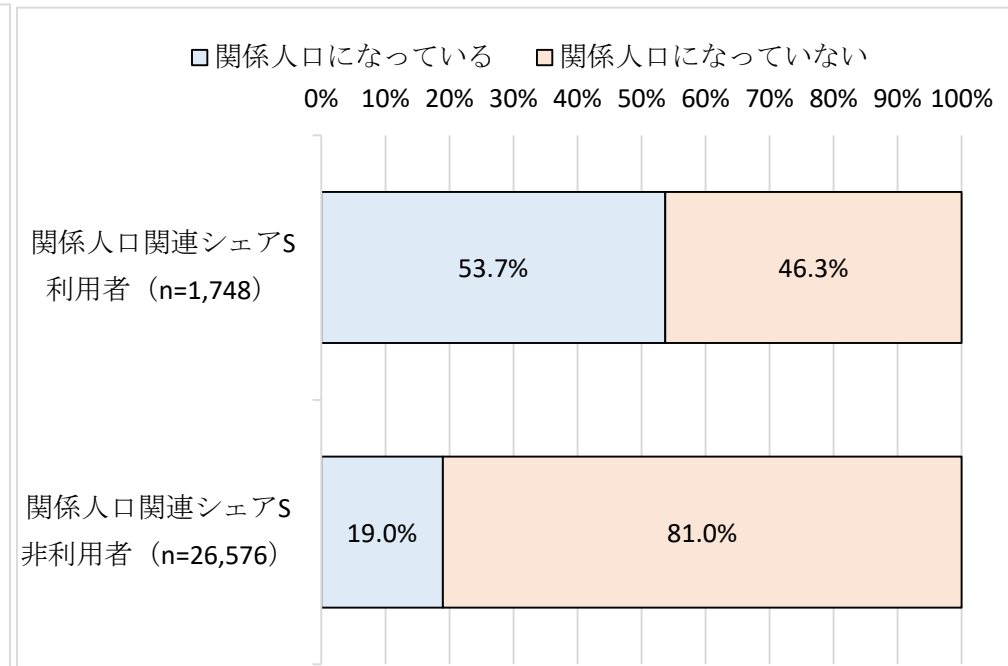
人との交流、関係人口

人との交流



関係人口関連シェアサービス利用者の方が、非利用者よりも、「趣味やスポーツの仲間」「地域活動やボランティアの仲間」と交流している割合が高い。逆に「交流無し」の割合は非利用者よりも低い。

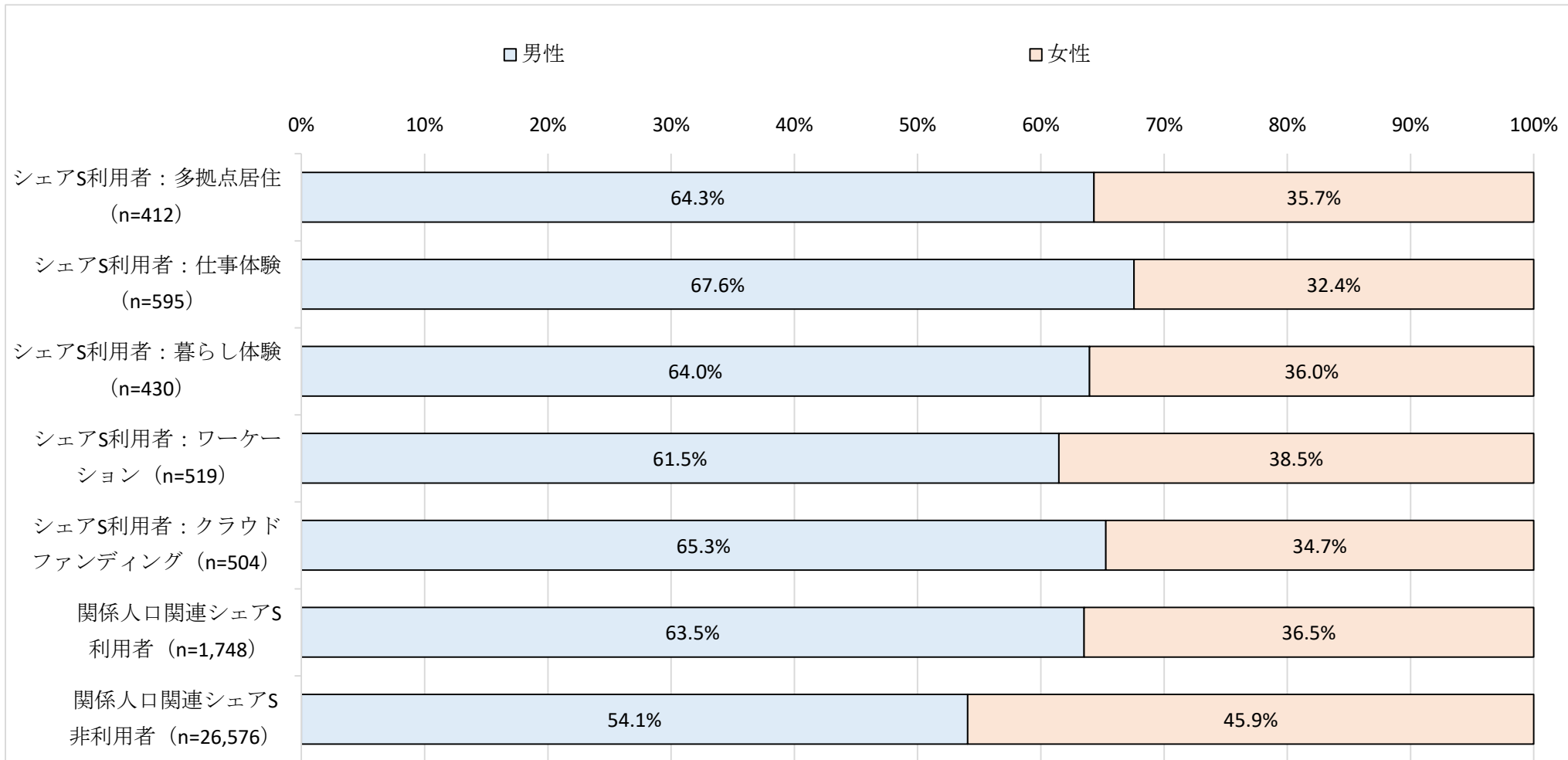
関係人口



関係人口関連シェアサービス利用者の方が、非利用者よりも、どこかの地域の関係人口になっている割合が高い。

参考：関係人口関連シェアサービス利用者の属性①

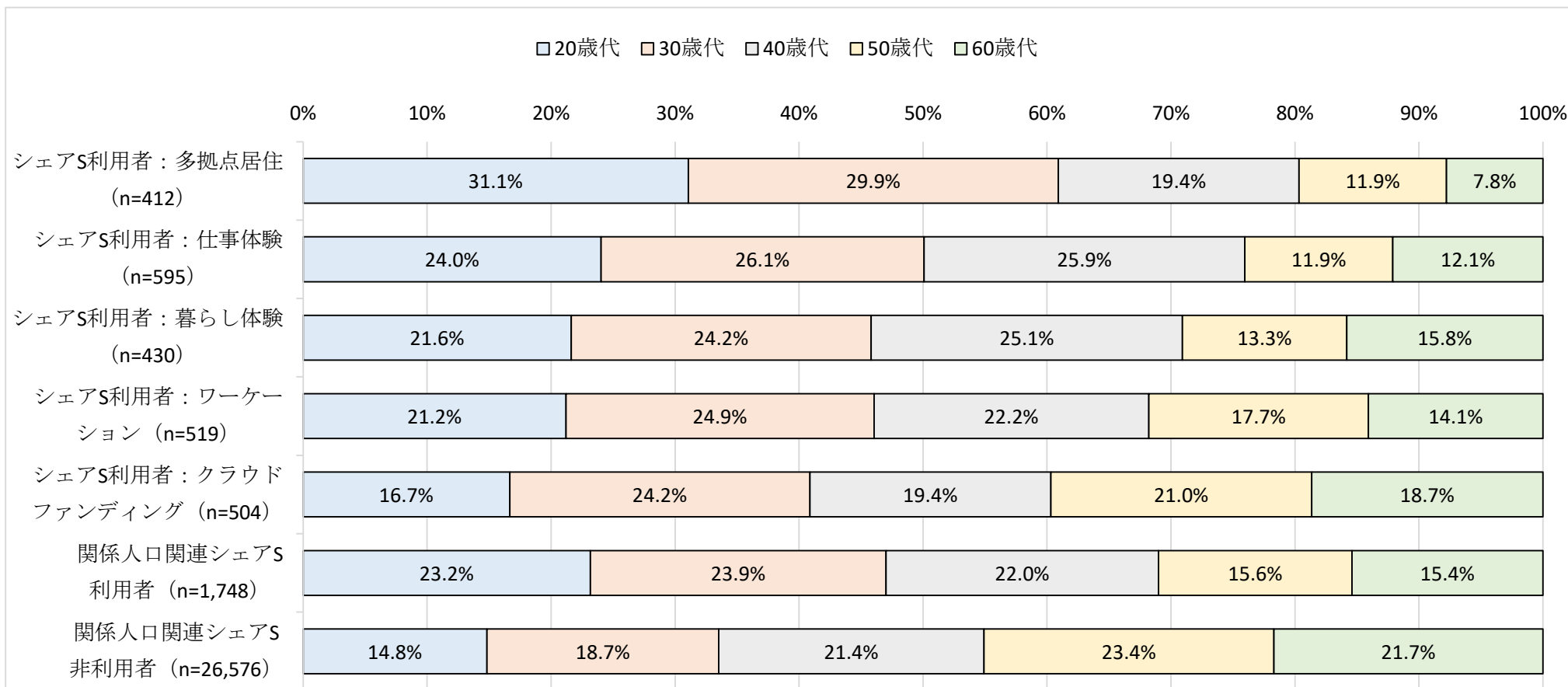
性別



※ 複数サービス利用者があるため、個別のシェアサービスの回答数合計が関係人口シェアS利用者の回答数と一致しない

参考：関係人口関連シェアサービス利用者の属性②

年齢

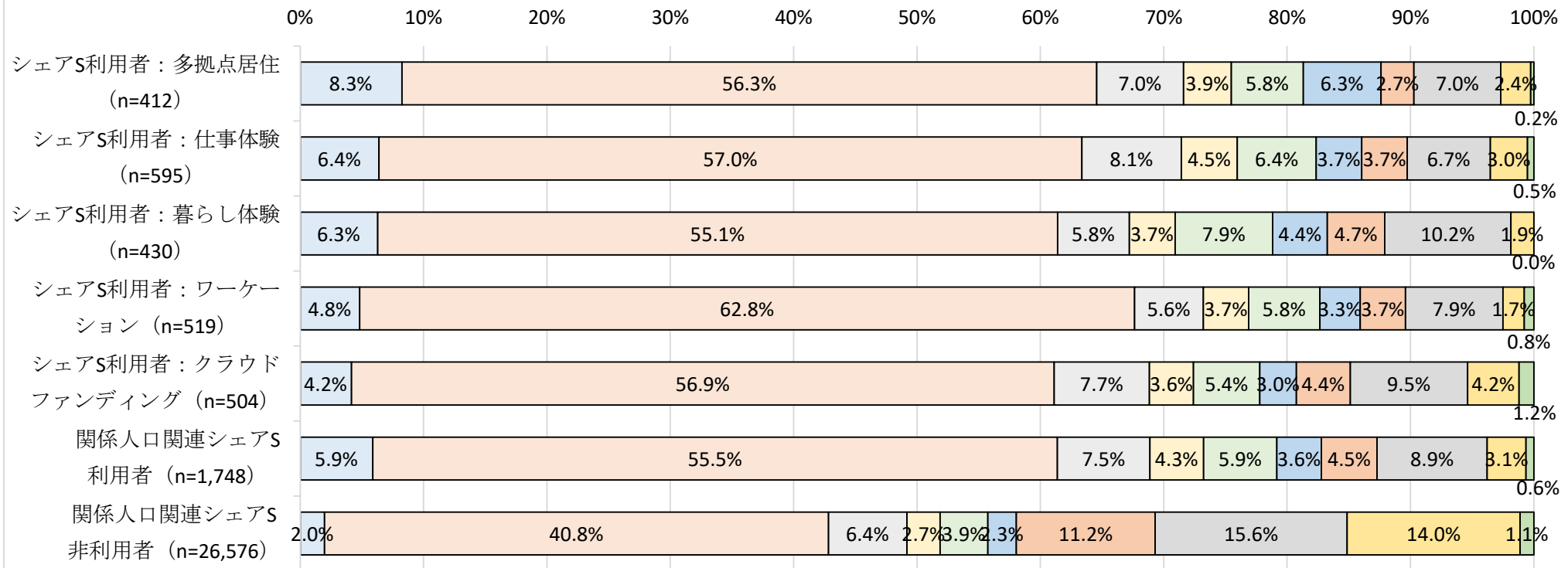


※ 複数サービス利用者があるため、個別のシェアサービスの回答数合計が関係人口シェアS利用者の回答数と一致しない

参考：関係人口関連シェアサービス利用者の属性③

職業

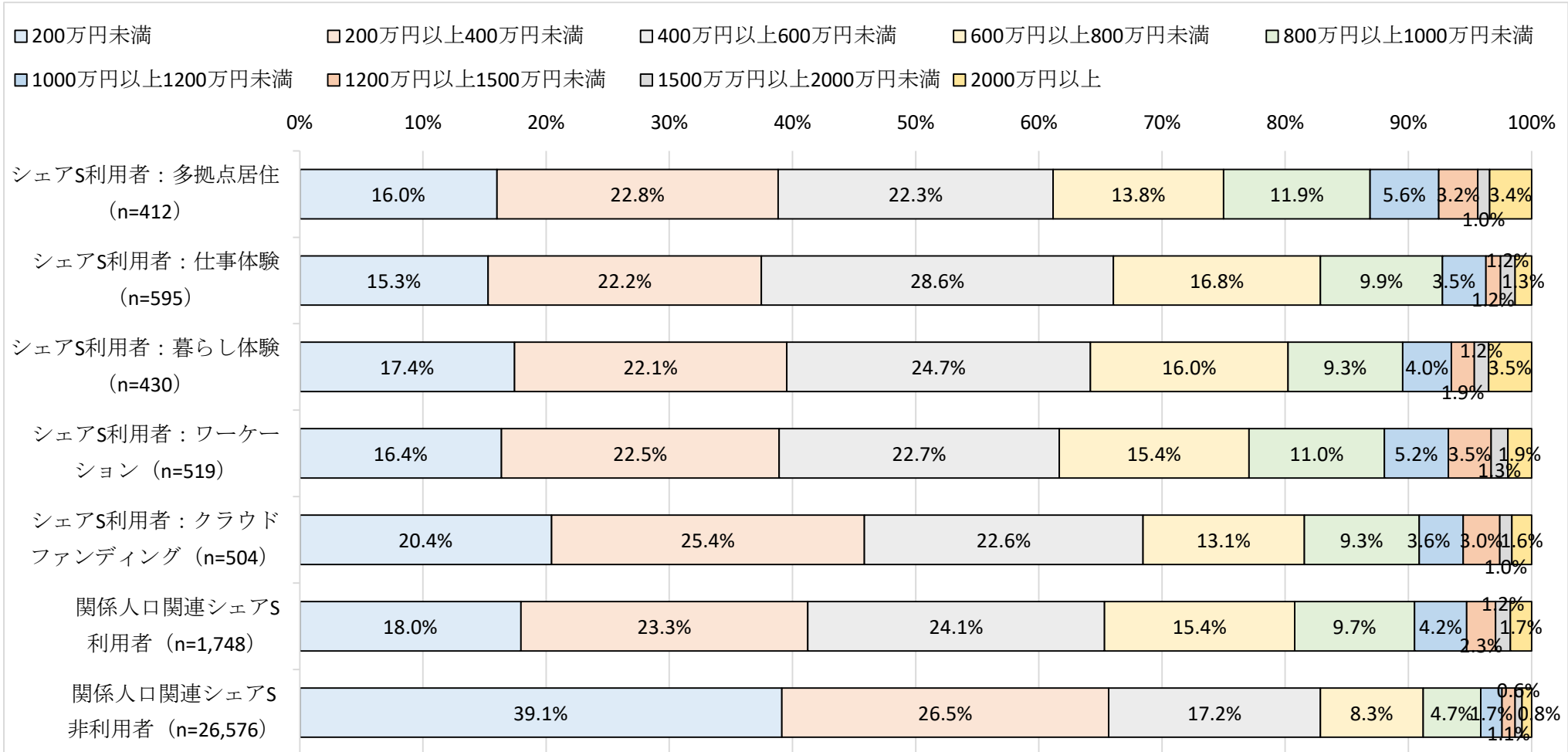
- 経営者・会社役員
- 専門職（医者・弁護士など）
- 専業主婦・主夫
- その他
- 会社員（契約社員・派遣社員を含む）
- 公務員
- パート・アルバイト
- 自営業
- 学生
- 無職



※ 複数サービス利用者があるため、個別のシェアサービスの回答数合計が関係人口シェアS利用者の回答数と一致しない

参考：関係人口関連シェアサービス利用者の属性④

年収



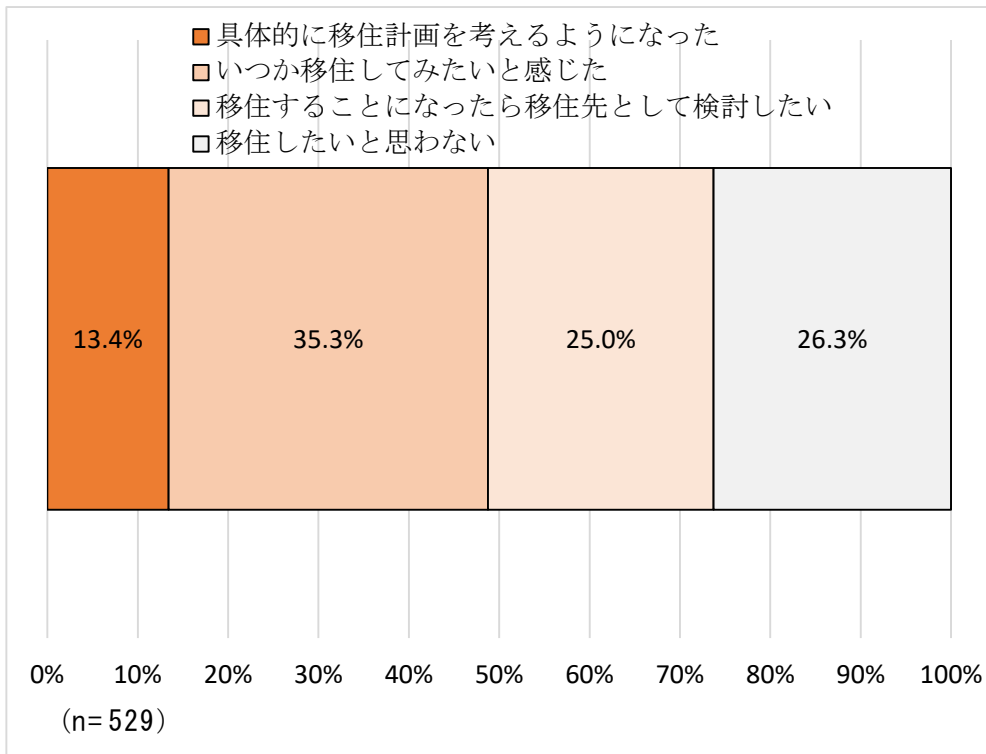
※ 複数サービス利用者があるため、個別のシェアサービスの回答数合計が関係人口シェアS利用者の回答数と一致しない

アンケート調査②

関係人口関連シェアサービス利用者（グラフ内で「シェアS利用者：～」と表記）に行ったアンケート調査

移住意向の向上

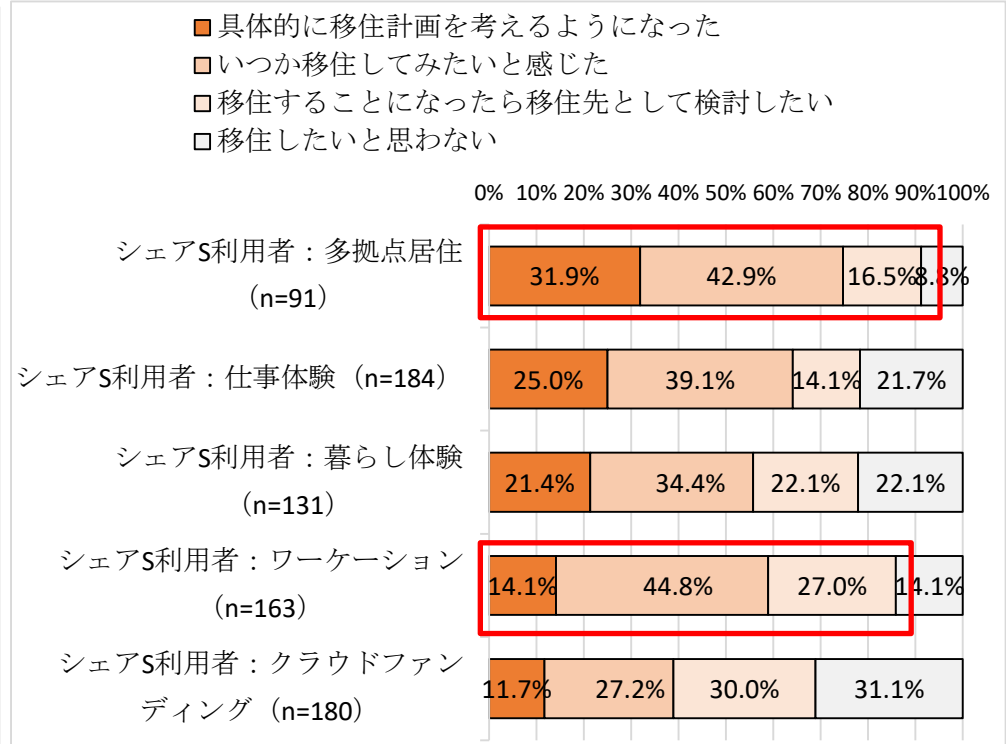
関係人口関連シェアサービス利用者全体



関係人口関連シェアサービス利用者の7割以上が、サービスを利用した地域に移住したい又は移住先として検討したいと回答。

※ 複数サービス利用者があるため、個別のシェアサービスの回答数合計が関係人口シェアS利用者の回答数と一致しない

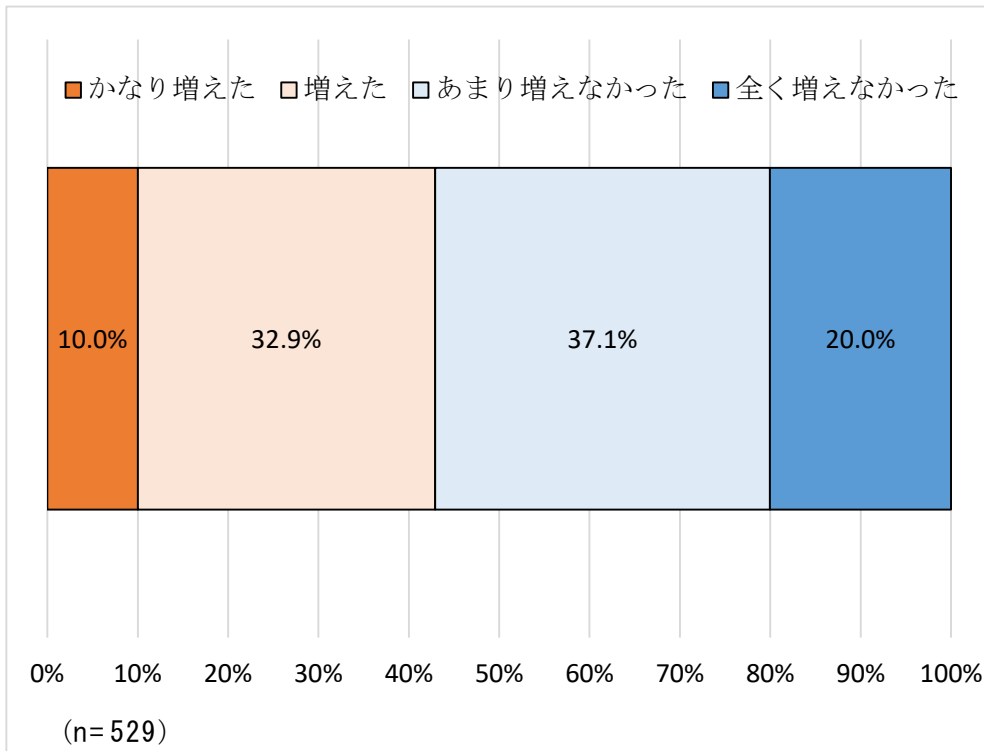
サービス別



サービスを利用した地域に移住したい又は移住先として検討したいとの回答割合が高いのは他拠点居住サービス利用者とワーケーション利用者。

地域活動やボランティアの仲間の増加

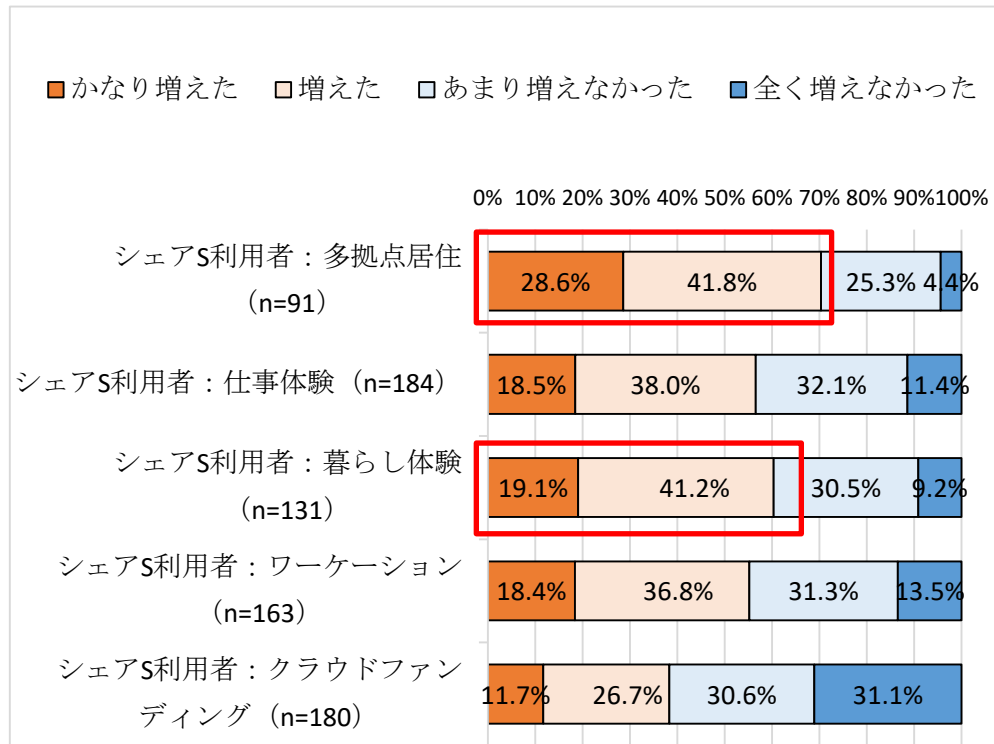
関係人口関連シェアサービス利用者全体



関係人口関連シェアサービス利用者の4割以上が、シェアサービス利用の結果として、地域活動やボランティアの仲間が増えたと回答。

※ 複数サービス利用者があるため、個別のシェアサービスの回答数合計が関係人口シェアS利用者の回答数と一致しない

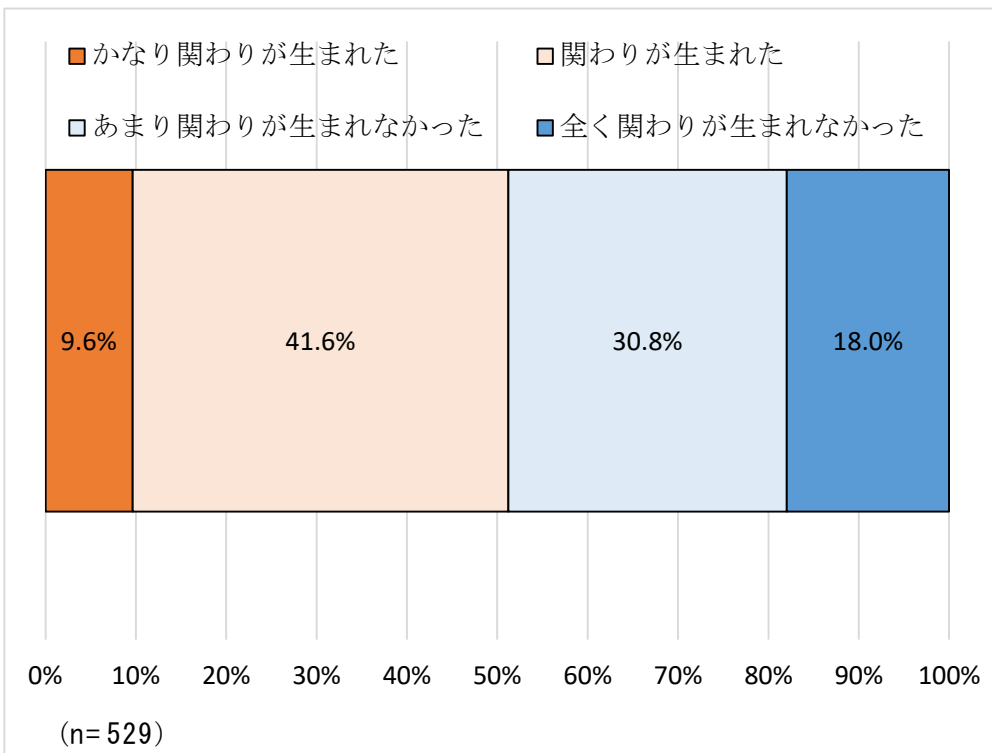
サービス別



サービスを利用した結果として地域活動やボランティアの仲間が増えたとの回答割合が高いのは他拠点居住サービス利用者と暮らし体験サービス利用者。

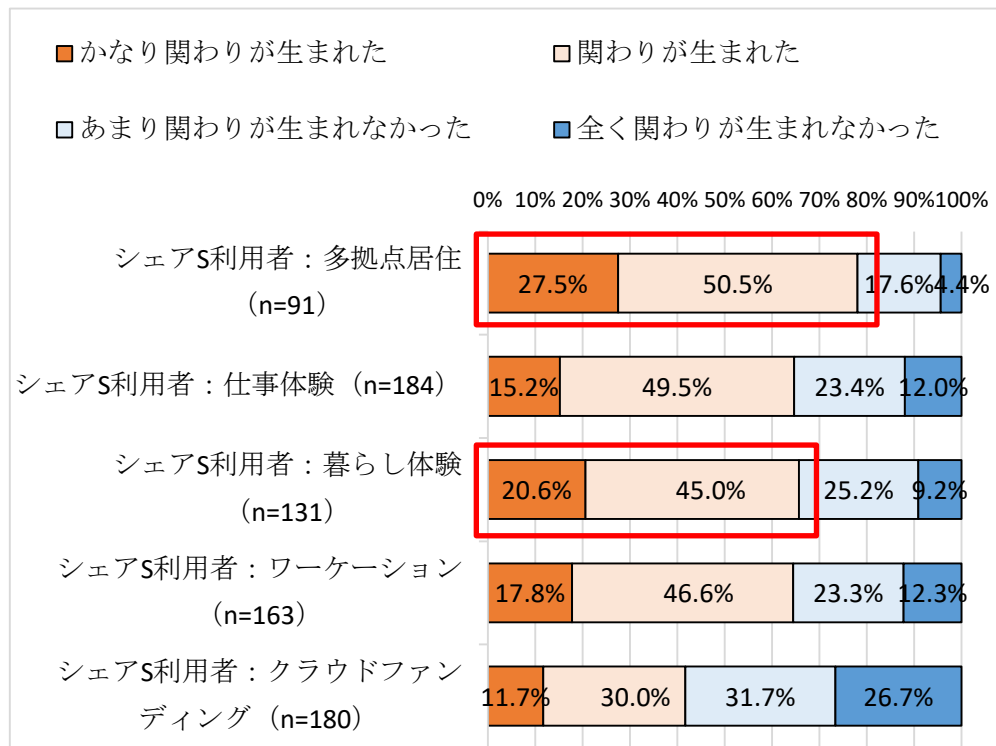
多様性に触れる関わりの創出

関係人口関連シェアサービス利用者全体



関係人口関連シェアサービス利用者の5割以上が、シェアサービス利用の結果として、多様性に触れる関わり※が生まれたと回答。

サービス別



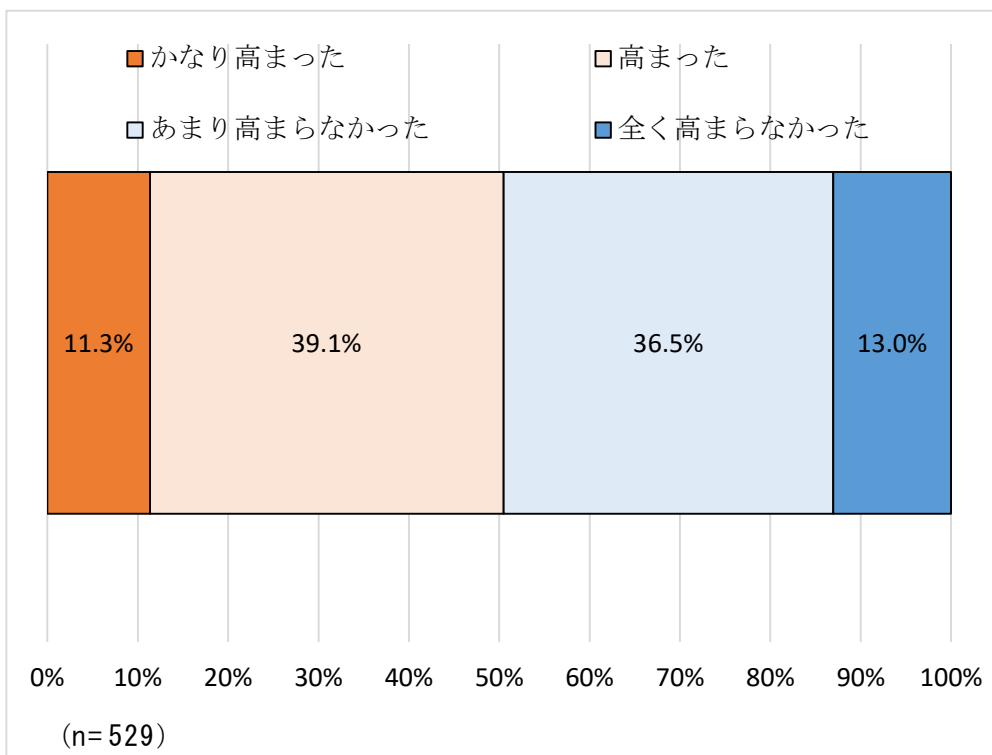
サービスを利用した結果として多様性に触れる関わり※が増えたとの回答割合が高いのは他拠点居住サービス利用者と暮らし体験サービス利用者。

※ 多様性（国籍、年齢、宗教、文化的背景、性（LGBT）、居住地等）に触れる関わり

※ 複数サービス利用者があるため、個別のシェアサービスの回答数合計が関連人口シェアS利用者の回答数と一致しない

幸福度の向上

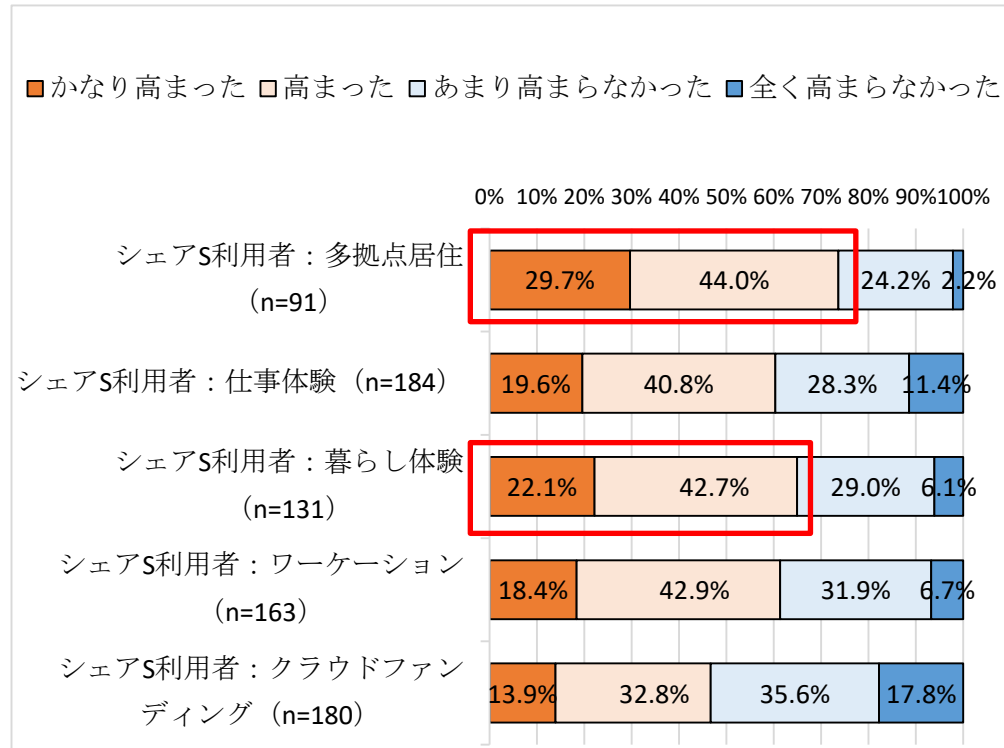
関係人口関連シェアサービス利用者全体



関係人口関連シェアサービス利用者の5割以上が、シェアサービス利用の結果として、地域の人とのつながりが深まること等によって幸福度が高まったと回答。

※ 複数サービス利用者があるため、個別のシェアサービスの回答数合計が関係人口シェアS利用者の回答数と一致しない

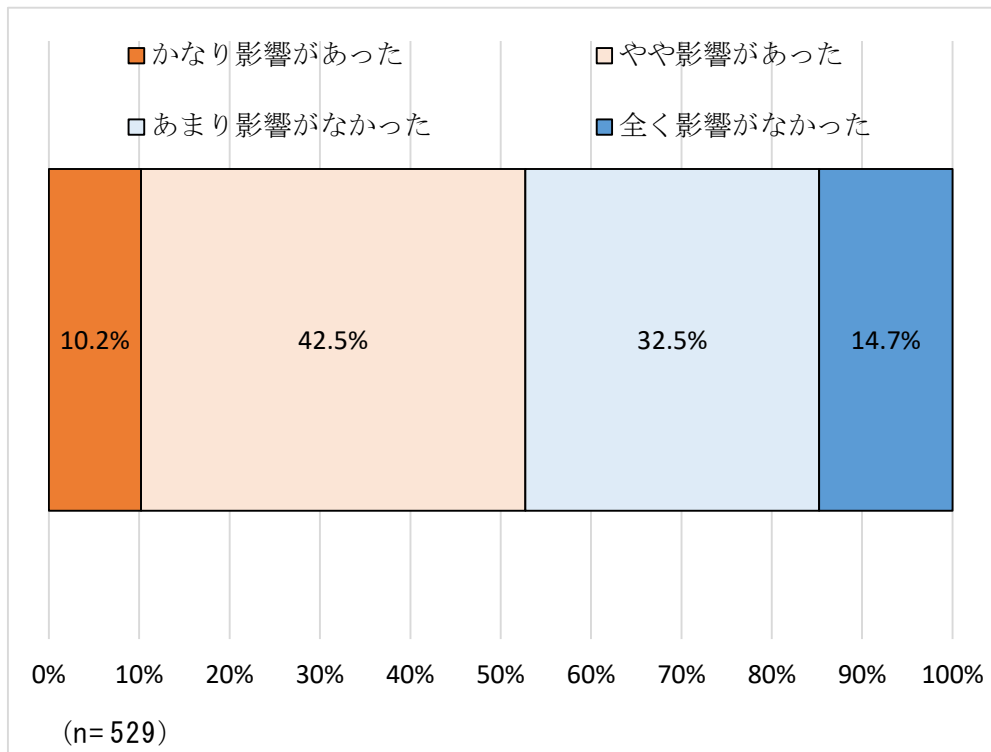
サービス別



サービスを利用した結果として幸福度が高まったとの回答割合が高いのは他拠点居住サービス利用者と暮らし体験サービス利用者。

今後のキャリアへのプラスの影響

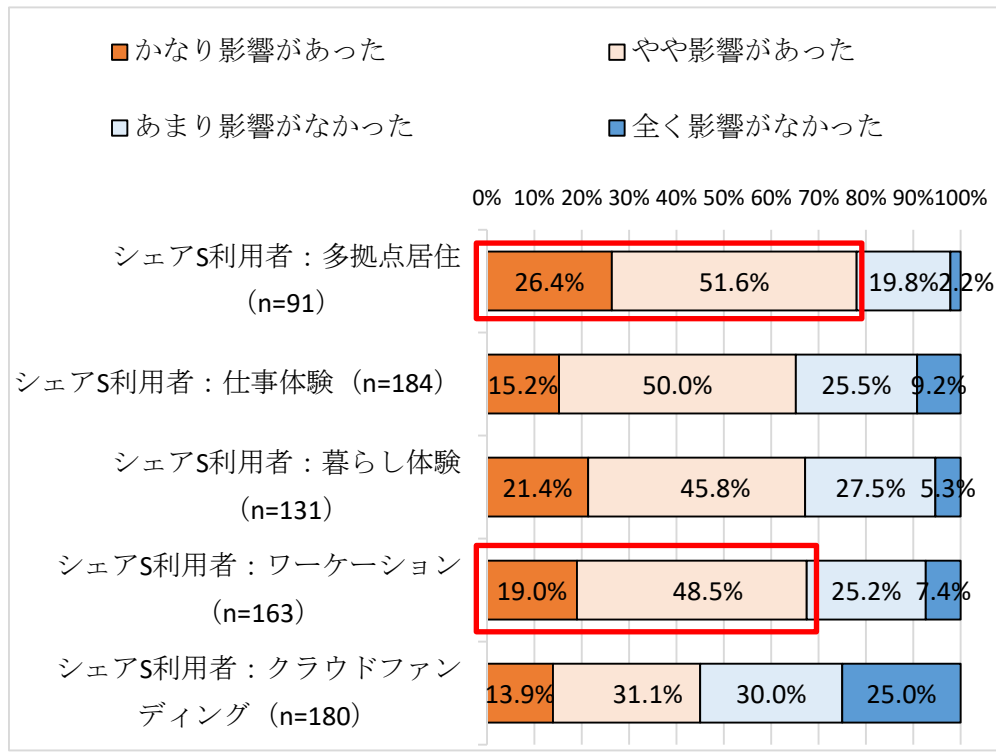
関係人口関連シェアサービス利用者全体



関係人口関連シェアサービス利用者の5割以上が、シェアサービス利用の結果として、今後のキャリアへプラスの影響があったと回答。

※ 複数サービス利用者があるため、個別のシェアサービスの回答数合計が関係人口シェアS利用者の回答数と一致しない

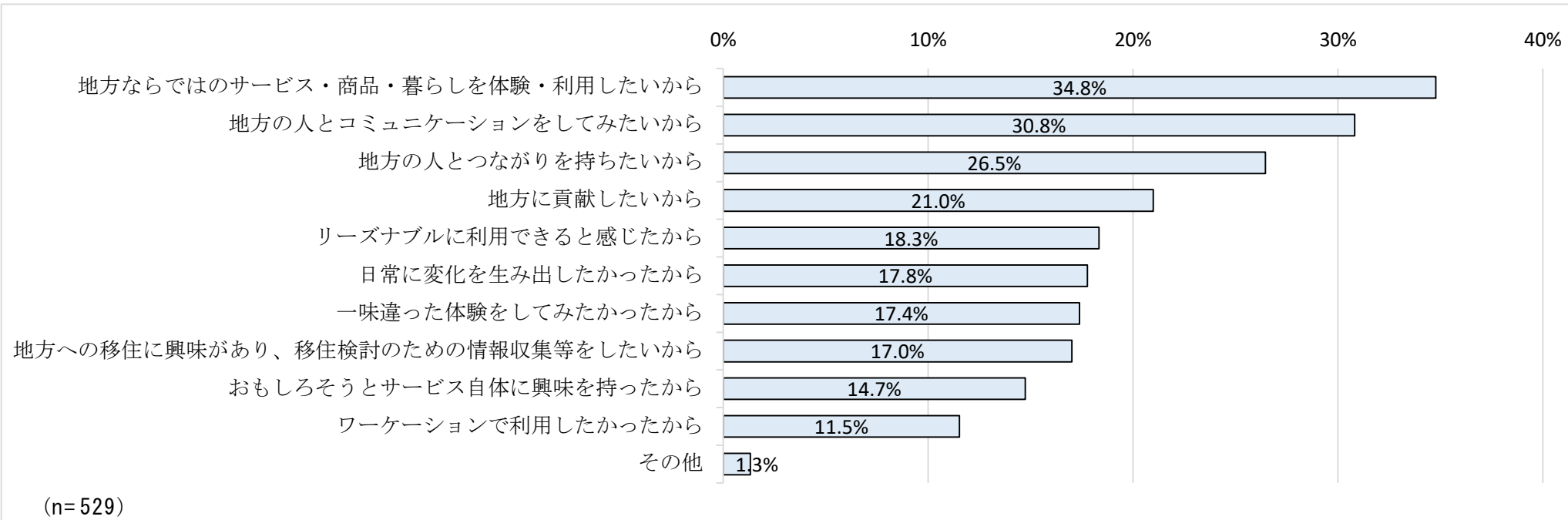
サービス別



サービスを利用した結果として今後のキャリアへプラスの影響があったと回答割合が高いのは他拠点居住サービス利用者とワーケーション利用者。

シェアサービス利用のきっかけ①

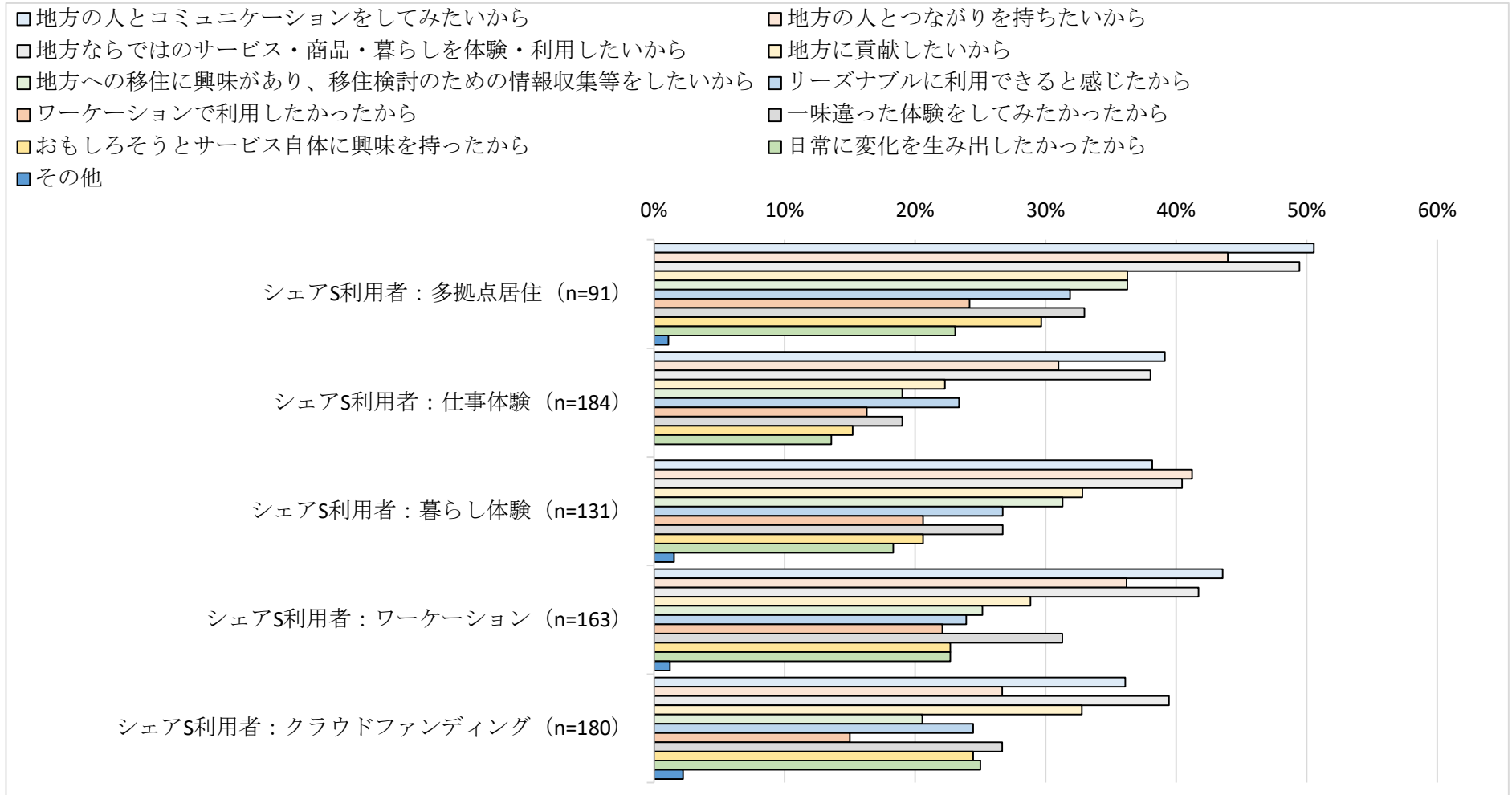
シェアサービス利用のきっかけ（関係人口関連シェアサービス利用者全体）



関係人口関連シェアサービスサービスを利用するようになったきっかけとして、回答割合が高いのは「地方ならではのサービス・商品・暮らしを体験・利用したいから」「地方の人とコミュニケーションをしてみたいから」で3割以上。

シェアサービス利用のきっかけ②

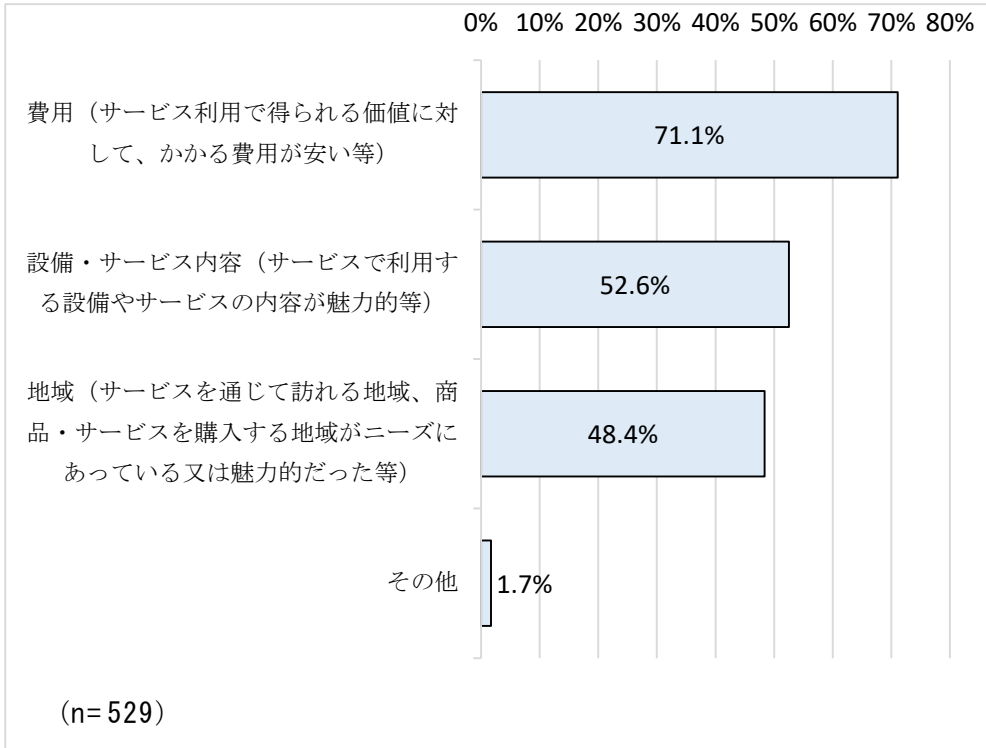
シェアサービス利用のきっかけ（サービス別）



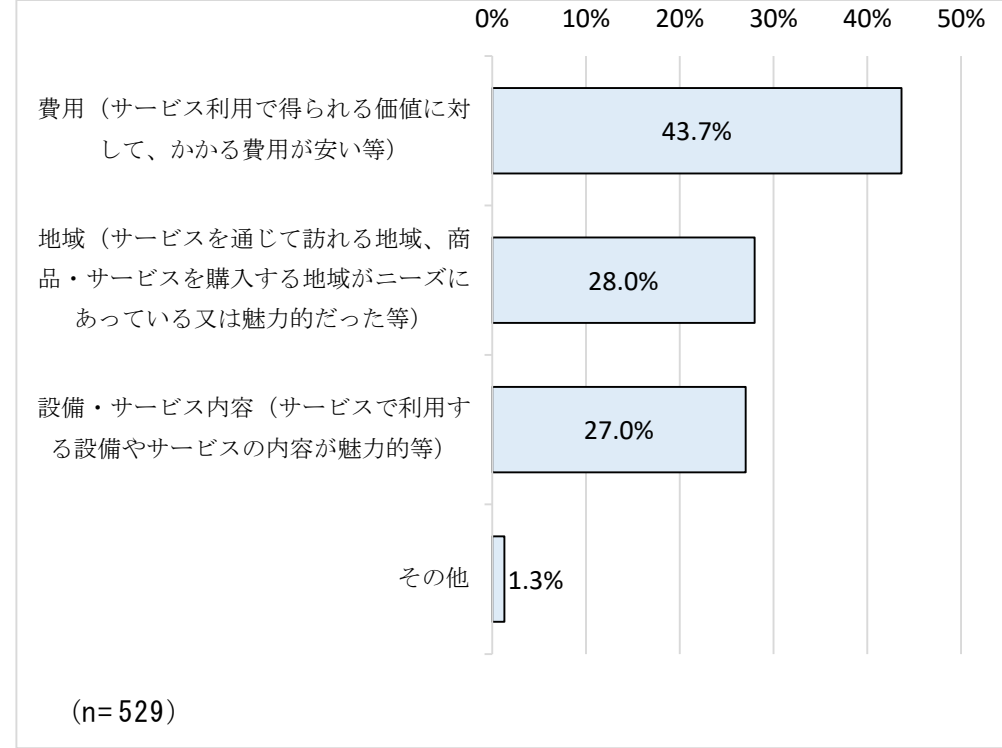
他拠点居住、仕事体験、ワーケーション利用者の利用のきっかけの回答割合は「地方の人とコミュニケーションをしてみたいから」が最も高い。暮らし体験サービス利用者は「地方の人とのつながりを持ちたいから」、クラウドファンディング利用者は「地方ならではのサービス・商品・暮らしを体験・利用したいから」の回答割合が高い。

シェアサービス利用の決め手①

シェアサービス利用の決め手 (複数回答)



シェアサービス利用の決め手 (最大の要因、単数回答)



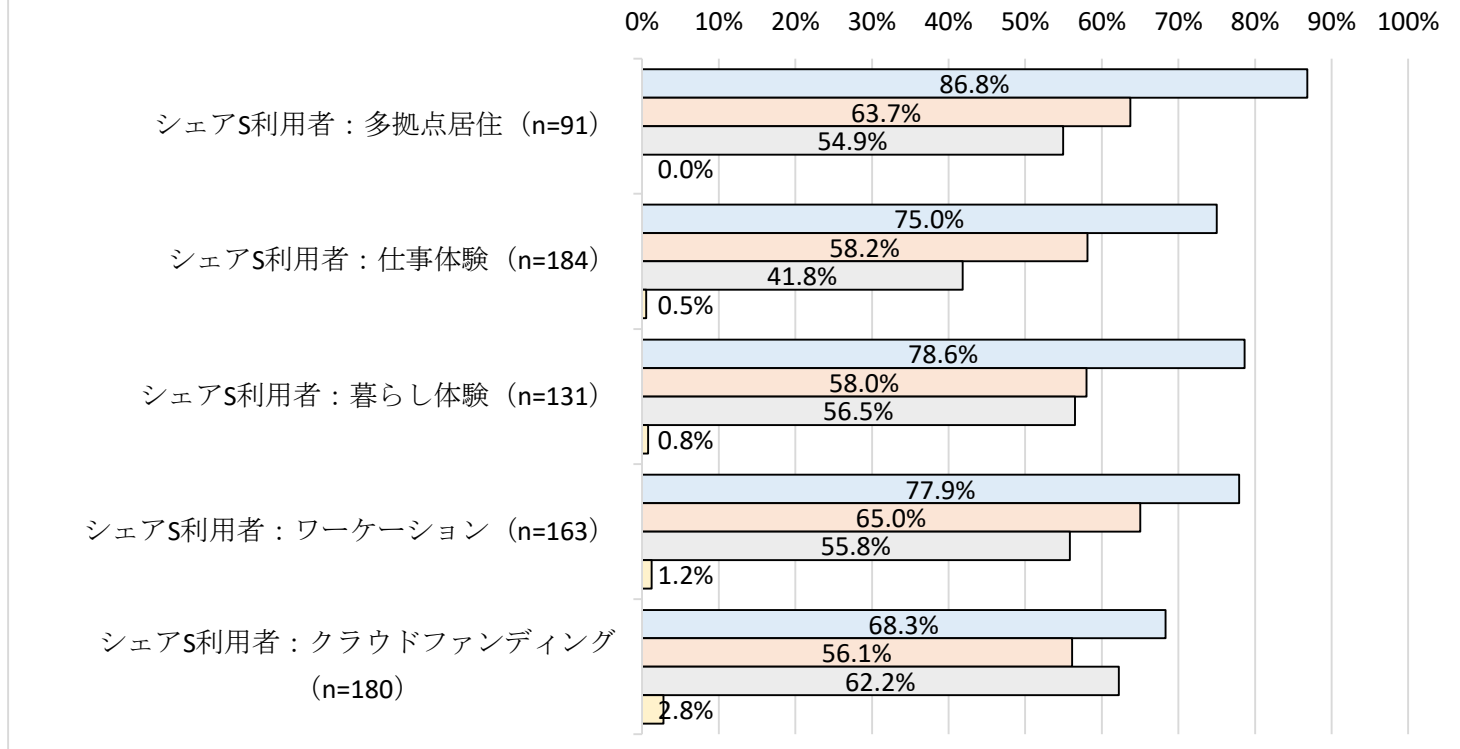
関係人口関連シェアサービスサービスを利用するようになった決め手としては、「費用」の回答割合7割以上と高い。

関係人口関連シェアサービスサービスを利用するようになった決め手の最大要因としては、「費用」の回答割合4割以上と高い。

シェアサービス利用の決め手②

サービス別のシェアサービス利用の決め手（複数回答）

- 費用（サービス利用で得られる価値に対して、かかる費用が安い等）
- 設備・サービス内容（サービスで利用する設備やサービスの内容が魅力的等）
- 地域（サービスを通じて訪れる地域、商品・サービスを購入する地域がニーズにあっている又は魅力的だった等）
- その他

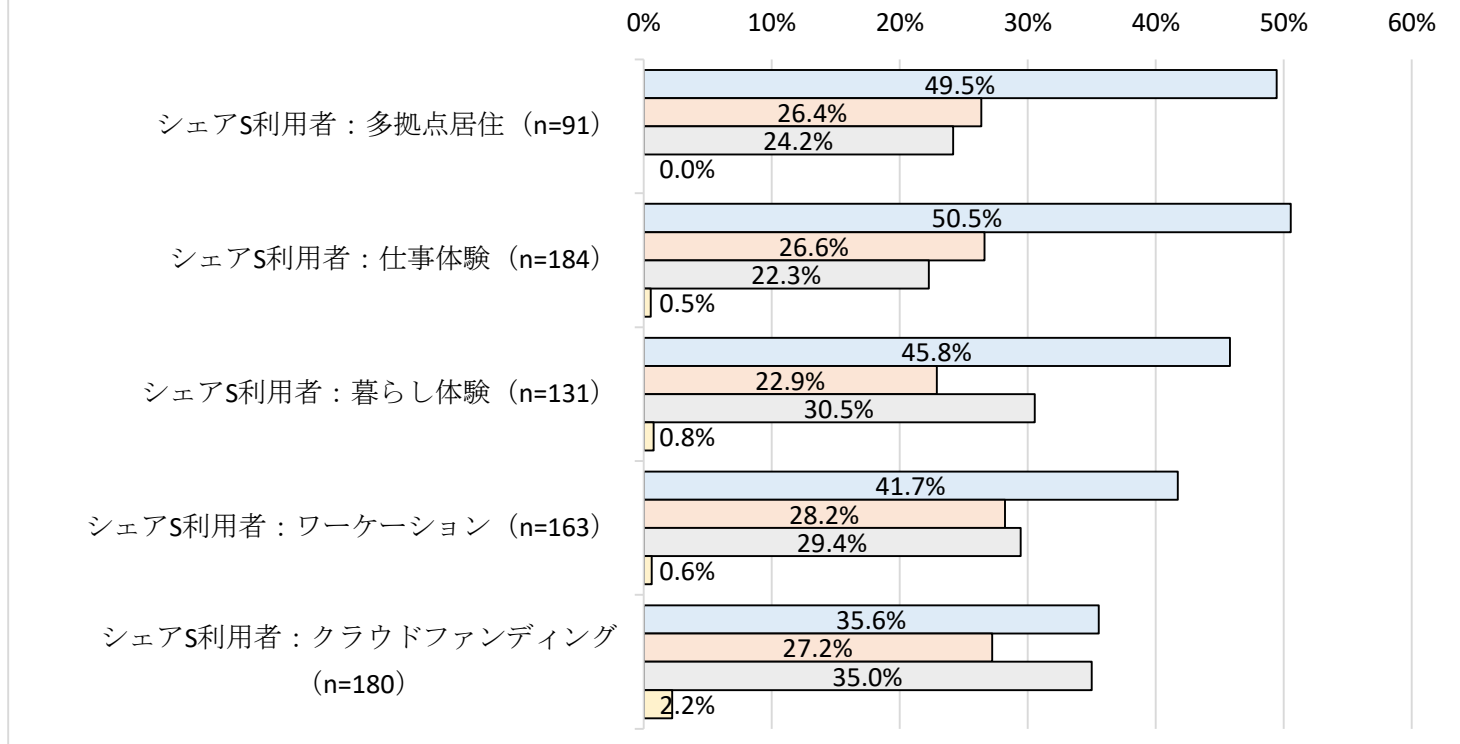


関係人口関連シェアサービスサービスを利用するようになった決め手は、どのサービスでも「費用」の回答割合が高い。次いで高いのは、クラウドファンディングのみが「地域」で、他のサービスは「設備・サービス内容」が高い。

シェアサービス利用の決め手③

サービス別のシェアサービス利用の決め手（最大の要因、単数回答）

- 費用（サービス利用で得られる価値に対して、かかる費用が安い等）
- 設備・サービス内容（サービスで利用する設備やサービスの内容が魅力的等）
- 地域（サービスを通じて訪れる地域、商品・サービスを購入する地域がニーズにあっている又は魅力的だった等）
- その他



関係人口関連シェアサービスサービスを利用するようになった決め手の最大要因は、どのサービスでも「費用」の回答割合が高い。次いで高いのは、暮らし体験、ワーケーション、クラウドファンディングが「地域」で、他拠点居住と仕事体験が「設備・サービス内容」。

他拠点居住の課題（世帯構成別）①

単身世帯

- 無駄に税金が高い
- 税金や住所を記載しなければいけない書類関係が複雑な気がします
- 税金対策
- 税金と選挙権
- 本社との環境のちがいによる意識の温度差
- 交通が不便
- 病院
- 宅配便と友達と遊ぶ時の予定合わせ

夫婦のみの世帯

- 税金が高い
- 税金
- 税金と選挙権

その他（単身、夫婦のみ、夫婦と子供以外）

- 言語
- 人との交流

他拠点居住サービス利用者に他拠点居住サービスの課題を聞いたところ、単身世帯、夫婦のみの世帯、その他（単身、夫婦のみ、夫婦と子供以外）では税金の課題が多く挙げられた。その他に上げられた課題には、選挙権、交通、病院等がある。

※ 他拠点居住サービス利用者のみに対する自由記述回答結果

他拠点居住の課題（世帯構成別）②

夫婦と子供の世帯

- 学校、収入
- 一番は子供たちの教育。地方に住むことには抵抗はなく、おおらかな自然の中で暮らしていけたらと思っているが、どうしても地方は学校の選択肢が少ないため、子供達が本当にやりたいことができるのか不安要素が大きい
- 学校
- 税金
- 税金
- 場所によって税金が違う
- 資金と税金
- 税金、少子化対策
- 選挙のときの住所
- 緊急時の移動
- 拠点間を移動に時間がかかる
- 交通費が高くなる
- 歳を重ねる毎に移動が辛くなって来ている。
- 家や仕事
- 仕事
- 費用
- コスト
- 病院の選択肢の少なさ
- 病院
- 海外に向けて、自己成長
- ワークライフバランスの充実度や気候変動に対応するための対策、また、生活することにおいて、公共施設・商業施設・交通機関の利便性

他拠点居住サービス利用者に他拠点居住サービスの課題を聞いたところ、夫婦と子供の世帯では、学校教育の課題が多く挙げられた。その他に上げられた課題は、税金、選挙、交通、病院等で、前ページの結果と共通している。

※ 他拠点居住サービス利用者のみに対する自由記述回答結果

参考：アンケート調査概要

調査名称：シェアリングサービスに関するアンケート調査

調査手法：Webアンケート調査（プレ調査、本調査の2段階）

調査対象：調査会社のWebモニター、20代～60代の男女

調査時期：2023年12月14日～12月18日

<プレ調査回答数> ※関係人口関連シェアサービス利用者とは非利用者双方

20代	30代	40代	50代	60代	合計
4,346	5,386	6,068	6,490	6,034	28,324

この内の関係人口関連シェアサービス利用者1,748の中の一部が下記本調査対象

<本調査回答数> ※関係人口関連シェアサービス利用者

20代	30代	40代	50代	60代	合計
37	78	157	154	103	529

本資料に関するお問い合わせ先

株式会社情報通信総合研究所

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-14-10

アーバンネット日本橋ビル

<http://www.icr.co.jp/>

ICTリサーチ・コンサルティング部

山本悠介

E-mail : yamamoto@icr.co.jp

Tel : 03-3663-7369

FAX : 03-3663-7660

